ジャスダック上場、経団連に加入

DX時代に攻めるゼネテック

ゼネテックは製造業へのデジタル技術の普及に向け、攻勢に出る。今年3月には「JASDAQ（ジャスダック）」に上場。9月には日本経済団体連合会（経団連）に加入した。上野憲二社長は「設立から独自に技術を培ったわが社の各事業を組み合わせることで、顧客に新たな価値を提供できる時代が来た」と意気込む。

時価総額500億円を

ゼネテックは今年3月、業務拡大と社会全体への貢献度向上を図り、東京証券取引所のジャスダックに上場。同時に「ビジョン500」を掲げた。まずは時価総額500億円超えを目指す。上野社長は「例年、中間決算の10月、年度末の3月に受注が増える。総じて受注状況は今が底で、今後は徐々に回復する」と見込む。

今年7月には、創立35周年を迎えた。売上高の7割を占めるシステム受託開発事業では、創業当時にポケットベル（ポケベル）のシステムを開発。そこからPHSや携帯電話向けのシステムを手掛けた。また現在は、カーナビや産業機械向けの案件も多く、電子機器の制御に必要な組み込みシステムを開発している。

エンジニアリングソリューション事業では、米国のCNCソフトウェア製の3次元CAD／CAMシステム「Mastercam（マスターキャム）」を1990年から国内販売。その30年の実績に加え、他にも製造業を支援するデジタルツールをそろえ、現場の今を熟知する。

そこで、デジタル技術やデータ活用で生産効率の向上を図る工場向けの「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」の導入促進のため、モノのインターネット（IoT）や人工知能（AI）技術に、機器制御も含めた提案に注力する。

「DX提案に全事業の知見を注ぐ」と意気込む、上野憲二社長

上野社長は「データを蓄積するクラウドからネットワークの開発、ハードの設計と制御もできるデジタル企業は多くはない。今後は生産性向上のため、よりDXの普及が進む」と確信する。

製造業から日本を元気に

顧客にDXの利点を訴求する狙いもあり、2018年から生産現場の3次元シミュレーションソフト「FlexSim（フレックスシム）」を総代理店として扱う。1000社以上から問い合わせや引き合いがある。工場の生産設備の稼働の様子や現場の従業員の行動をデジタル上に再現することで、工場全体の生産能力や工程内のボトルネックが一目で分かる。

今年9月には「GC稼働モニタリングシステム」を発売。機械設備に接続して各種信号情報を取得する機器を自社開発した。機械の新旧メーカーを問わず接続し、機械の電源や制御信号から稼働情報を取得することで、同一の情報基盤上で稼働監視できる。さらに「マスターキャム」や産業用ロボット用の教示システム「Robot-master（ロボットマスター）」の販売を通じて、現場の生産性向上やロボット導入を支援する。

根底には、製造業の競争力低下で低迷する日本経済全体への危機感がある。そのため、経団連にも加入した。「製造業は日本経済の屋台骨。デジタル化や自動化を進めて生産効率を上げないと世界に打ち勝つ体力がなくなる。わが社が35年間培ってきた開発力と現場力で、貢献したい」と意気込む。　（西塚将喜）